

学校における「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」実践事例



令和2年12月 北海道教育庁義務教育課

新型コロナウイルス感染症については、長期的な対応が予想される中、学校においては、「3つの密」の回避、マスクの着用及び手洗いなど基本的な感染症対策を継続するとともに、感染拡大のリスクを可能な限り低減させながら教育活動を継続し、子どもたちの健やかな学びを最大限に保障することが求められています。

このたび、道内の小・中学校で実践されている具体的な工夫例をまとめましたので、地域及び学校の実情に応じて御活用ください。

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（Ver. 5）における基本的な考え方

実施に当たっての留意事項

- ・できるだけ個人の教材教具を使用し、児童生徒同士の貸し借りはしないこと
- ・器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の手洗いを行わせること 等



各教科等における「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」例

【各教科等に共通する活動】

- ・児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク
- ・近距離で一斉に大きな声で話す活動（★）



【理科】

- ・児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察



【音楽】

- ・室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏（★）



【図画工作、美術】

- ・児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動



【家庭、技術・家庭（家庭分野）】

- ・児童生徒同士が近距離で活動する調理実習（★）



【体育、保健体育】

- ・児童生徒が密集する運動（★）
- ・近距離で組み合ったり接触したりする運動（★）



（★）特にリスクの高い学習活動

〔レベル3地域〕

上記の活動は、「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い」ことから、行わないようにすること。

〔レベル2地域〕

上記の活動は、可能な限り感染症対策を行った上で、リスクの低い活動から徐々に実施することを検討すること。（★）を付した活動については、特にリスクが高いことから、実施について慎重に検討すること。

道内の小・中学校における実践事例

道内の小・中学校では、地域の感染状況や校舎等の施設設備の状況、児童生徒の実態等を踏まえ、学校としての方針を明らかにした上で、教職員の共通理解の下、様々な工夫を講じながら、教育活動を継続させるよう取り組んでいます。

校内での共通理解、家庭・地域との連携

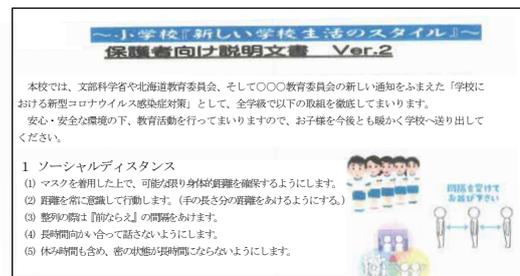


■ 教職員間の共通理解・共通行動の徹底

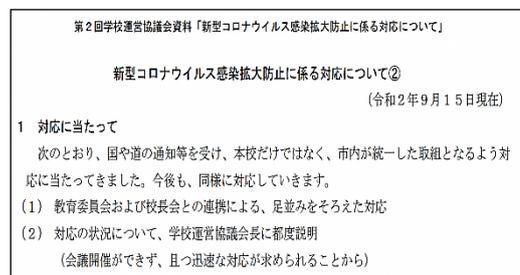
- 校内における感染症対策を徹底し、全教職員が一体となって取り組むことができるよう、国や道教委の新型コロナウイルス感染症に関する通知の要点を分かりやすく整理した資料を作成（渡島管内小学校）
- 子どもたちの学びを最大限保障する学習活動の実現に向けて、全教職員で共通理解を図ることができるよう、感染拡大防止の観点を踏まえた「グランドデザイン」を作成（胆振管内小学校）

■ 保護者・地域への周知

- 保護者の不安を解消することができるよう、学校の教育活動全体を通じて行う感染症対策をまとめた保護者向けの説明文書を作成・配付（後志管内小学校）
- 学校、家庭、地域が連携し、子どもたちの学びを最大限に保障することができるよう、学校運営協議会の機能を生かし、これまでの対応状況や今後の取組内容を共有（胆振管内小学校）
- 感染症対策を徹底しながら教育活動を工夫している様子について保護者等と共有することができるよう、学校のWebページを活用し、継続して配信（石狩管内中学校）



（後志管内小学校）



（胆振管内小学校）

学校の授業や部活動等における常時換気やマスクの着用



※合唱は、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」（令和2年12月9日付け教義第1092号）を踏まえて行います。

■ 室内における合唱

音楽の授業において、飛沫感染対策を講じた上で、合唱を行うことができるよう、マスクを着用するとともに、児童生徒の前後の間隔を2メートル確保することや、教室の前後の窓を常時開放し、換気することなどを工夫

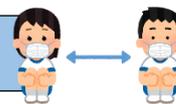


（上川管内小学校）



（根室管内中学校）

身体的距離を確保した活動



■ 少人数グループによる運動

体育科の授業において、子ども同士の接触を避けて活動することができるよう、小グループに分けてそれぞれの運動を行うとともに、子どもが相互に身体的距離を意識できるよう、グラウンドにマーカーを設置



(十勝管内小学校)

■ 身体的距離を確保した調理実習

家庭科の授業において、安全で衛生的に活動できるよう、身体的距離を確保するとともに、材料を洗う、切るなどの調理手順において、可能な限り同じ方向を向いて取り組むことなど、調理計画を工夫



(留萌管内小学校)

■ 身体的距離を確保した座席配置

各教科等の授業において、児童の身体的距離を確保することができるよう、学級を2つの教室に分けるとともに、各教室で同時に授業を行うことができるよう、授業をモニターで映した指導を工夫



(檜山管内小学校)

アクリル板等の設置



■ 課題解決に向けた実験や観察

理科の授業において、課題解決に向けて実験や観察の結果を基に、話し合いながら考えを深めることができるよう、飛沫拡散防止パネルを机上に設置



(空知管内中学校)

■ リコーダー等の管楽器演奏

音楽科の授業において、飛沫感染対策を講じた上で、友だちの演奏する音を聴きながら、音を合わせて演奏することができるよう、机の前方と側方に間仕切りを設置



(渡島管内小学校)

フェイスシールドの活用



※フェイスシールドやマウスシールドは、マスクに比べ効果が弱いことに留意する必要があります。活用する場合は、身体的距離を取りながら行います。

■ 対面形式によるグループワーク

道徳科の授業において、道徳的価値について多様な考え方に触れながら、自分の考えを深めることができるよう、フェイスシールドとマスクを着用し、グループで話し合う活動を実施



(十勝管内中学校)

■ 近距離で活動する実験

理科の授業において、実験から得られた結果をグループで分析し、解釈することができるよう、小グループを編成するとともに、フェイスシールドとマスクを着用し、実験を実施



(宗谷管内中学校)

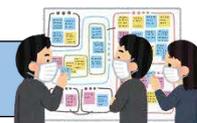
■ リコーダー等の管楽器演奏

音楽科の授業において、友だちとリコーダーの音色や響きを確認しながら演奏することができるよう、座席の距離を十分に確保するとともに、フェイスシールドを着用し、練習を実施



(石狩管内中学校)

グループワークや対話での工夫



■ 短時間でを行うグループワーク

国語科などの授業において、自分の考えを整理し、効率よく短時間で話し合い活動ができるよう、付箋紙やホワイトボードを活用し、自分の考えを交流する活動を実施



(オホーツク管内小学校)



(釧路管内中学校)

■ Zoom を活用した「やり取り」

外国語科の授業において、対面形式での活動を回避した中でも、自分の考えを伝え合うことができるよう、1人1台端末を活用するとともに、マスクとヘッドセットを着用し、英語による応答を実施



(上川管内中学校)